

栄養学雑誌投稿規定

1. 雑誌の目的と編集方針

栄養学雑誌（The Japanese Journal of Nutrition and Dietetics）は、特定非営利活動法人日本栄養改善学会（以下「本学会」）の学会誌として、国民の健康増進に寄与するために、栄養学・健康科学と栄養実践活動に関する科学的根拠の蓄積と発信、並びにそのための調査研究の推進に資する論文等の情報を学会員および関連の研究者・実践者に時宜を得て提供することを目的とする。掲載する内容は、依頼原稿も含めて査読審査（peer-review）により科学的妥当性および専門領域における価値水準を一定以上とする。本誌に掲載される論文（総説、原著、研究ノート、実践活動報告、資料、会員の声等）は、J-STAGEにて公開される。

2. 投稿資格と条件

本誌への投稿者は、全員が本学会の会員であること。ただし、「実践活動報告」の区分で投稿する場合は、筆頭著者と連絡責任者が本学会の会員であることとし、その他の著者の会員資格は求めない。筆頭著者と連絡責任者は同一でもよい。また、筆頭著者と同等の関与をした1名を共同筆頭著者としてもよい。依頼原稿の場合はこの限りではない。なお、著者は、研究計画の考案・作成、データ収集・解析、原稿作成と修正の確認のいずれかに携わった者でなければならない。投稿にあたって、全ての著者が投稿に同意し、原稿の内容について責任を持たなければならない。

3. 論文の採否

投稿論文の採否は、複数の査読者の意見を参考にし、編集委員会において決定する。

4. 投稿内容

- 1) 投稿原稿の条件：他の学会誌等に掲載されていないものであり、なおかつ投稿中でないものに限る（二重投稿の禁止、同時投稿の禁止）。
- 2) 原稿の区分、内容、頁数：

区 分	内 容	頁数
総 説 (Review Articles)	栄養学・健康科学および栄養実践活動に関する特定の主題についてのこれまでの知見や研究業績の総括	8
原 著 (Original Articles)	栄養学・健康科学および栄養実践活動に関する論文で、独創性・新規性があり、かつ科学的に価値ある事実を含むもの	8
研究ノート (Brief Reports)	栄養学・健康科学および栄養実践活動に関する論文で、原著論文としてはまとまらないが独創性・新規性があり報告に値するもの	5
実践活動報告 (Practical Solutions)	栄養・健康増進に関する実践活動の報告	8
資 料 (Information)	行政調査結果等、栄養改善上有用な情報の紹介	5
会員の声 (Letter)	掲載論文に対する意見、海外事情、関連学術集会、ボランティア活動の報告等	1

ただし、刷り上がり1頁の字数は2,200字に相当する。この字数には、抄録、本文（文献）を含む。原則として、上記頁数を超えないこと。なお、各区分の頁数を超えた場合、投稿者は超過頁料金（1頁当たり13,000円（税別））を負担する。※本規定「8. 9）超過頁および別刷の料金」参照

- 3) 原稿の言語：原則として和文とする。ただし、表、図、写真の説明はこの限りでない。英文を用いる必要性のある場合はこれを認めるが、英文校閲は投稿者の負担で行い、証明書を投稿時に添付すること。
- 4) 原稿の形式：原則としてモノクロ原稿とする。ただし、投稿者の希望によりカラー原稿を認める。また、必要がある場合は、電子ジャーナルに電子付録（表、図、写真、動画）の掲載を認める。その他、別に定める【執筆要領】に従うこと。

5. 著作権

掲載された論文等の著作権は本学会に属する。なお機関リポジトリへの登録等、掲載論文の転載については別に定めた要領に基づき許可する。

6. 倫理的事項

1) 研究倫理審査

ヒトを対象にした研究は、世界医師会総会（World Medical Assembly）において承認されたヘルシンキ宣言の精神

に則り、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）を遵守して行われたもので、倫理審査委員会等に承認されたものでなければならない。倫理審査委員会等の承認番号を記載すること。介入を行う研究については、jRCT等の公開データベースに、当該研究の概要等をその実施に先立って登録し、更新を行わなければならない。なお、介入とは、研究目的で、人の健康に関する様々な事象に影響を与える要因の有無または程度を制御する行為である。栄養指導・食事療法、栄養教育・食育、バランスの取れた食事等の日常生活における行動などの食事・栄養に関わる要因を含む。該当する研究は、本文中に倫理審査委員会等の承認番号に加えjRCT等の登録番号を記載すること。

ただし、「実践活動報告」の区分で投稿する場合で、投稿者が所属する施設もしくは業務委託元施設に倫理審査委員会等が設置されていない場合、所属長等による倫理審査委員会等と同等の審査により承認されたことを証明する書類（所属長等名、承認日、文書番号が記載されていること：書式は別紙参照）の提出をもって、倫理審査委員会等に承認されたものと見なす。

動物を用いた研究についても「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（文部科学省）等を遵守し、動物実験委員会等に承認されたものでなければならない。また、本文中に動物実験委員会等の承認番号を記載すること。

2) 謝辞

著者の条件に満たないが研究の遂行や論文作成に関わった者については謝辞に記載する。

3) 利益相反 (conflict of interest)

投稿論文の研究について、当該論文の公表により利害関係が生じる可能性のある場合、その企業・法人組織、営利を目的とする団体との利益相反 (conflict of interest) の有無に関する開示書を本学会の規程に沿って、提出しなければならない。また、論文の採否には影響しないが、利益相反の有無について、本文中に具体的に記載すること。研究費助成、資料提供、物品および便宜供与等を含む。

4) 資金

当該研究の遂行や論文作成に際して、政府、営利を目的としない団体から、研究費助成、資料提供、物品および便宜供与等を受けた場合には、その旨を記載する。

7. 投稿にかかる費用

本誌への投稿は無料とするが、掲載可となった場合、原稿の区分にかかわらず、掲載料として一律10,000円（税別）を投稿者の負担とする。ただし、依頼原稿の場合は掲載料は要しない。

8. 投稿から掲載までの流れ

1) 投稿概要

投稿から査読終了までの投稿者と栄養学雑誌編集委員会事務局（以下、編集事務局）とのやり取りは、全てオンライン投稿システムで行うこととする。

オンライン投稿システムにて、原稿ファイルおよび別紙様式等のファイルを個別にアップロードする（オンライン投稿システムにある【投稿原稿チェックリスト】で確認する）。

また、査読を効率的に進めるために、投稿者が原稿とは別に調査票やインタビューマニユスクリプトを、参考資料として添付してもよい。

添付書類に不備がないことを編集事務局が確認した日を「受付日」とする。

2) 投稿方法

論文の投稿は、本学会ウェブサイトのオンライン投稿案内もしくは下記のリンクより行う。オンライン投稿システムへアクセスし、システムの入力項目に従って入力すること。

オンライン投稿システム (Editorial Manager) <https://www.editorialmanager.com/eiyogakuzashi>

3) オンライン投稿システム (Editorial Manager) の推奨環境についての最新情報は、以下のサポートサイトを確認すること。

<https://www.editorialmanager.jp/faq>

4) 投稿論文に関する連絡は、E-mailにて行われる。

5) 投稿時に登録いただくもの

①投稿手続き票：会員資格（会員番号）など

- ②著作権委譲承諾書
- ③利益相反開示書
- ④投稿論文の原稿データ (MS-Word) 1点
- ⑤投稿論文の図表データ (MS-Excel, MS-PowerPoint, JPEG などの解像度 300 dpi 以上の画像データ) 一式
- ⑥必要な場合、電子付録 (表, 図, 写真, 動画)

6) 審査

原則として2～3名の査読者による論文内容の審査を行う (各査読者には、初審3週間、2審以降2週間以内での審査を依頼)。編集委員会は査読者を決定し、その審査結果を踏まえて編集委員会が最終的な採否を決定する。編集委員会は、原稿内容の修正および「原稿の区分」の変更を審査過程において投稿者に求めることがある。編集委員会からの通知により修正等を求められた投稿者は、その通知から2か月以内に修正原稿を再提出しなければならない。その期間を超えた場合には、投稿をとり下げたものとして処理する。なお、査読のやり取りが3回を超えても、掲載可とならない場合には、一度不採用とし、改めて投稿を勧める場合もある。

7) 和文の場合の抄録の英訳

編集委員会の求めにより、抄録の英訳を提出する。編集委員会において英文校閲を行い、それを基に投稿者が最終原稿を作成する。

8) 掲載可となった後のプロセス

- ①編集委員会が掲載可と判定した日を「受理日」とする。投稿原稿の掲載順は原則として受理日の順とし、編集委員会がその決定を行う。
- ②著者校正は初校のみとし、原則として誤字・脱字以外の加筆・修正は認めない。2校以降は、著者校正に基づき、編集委員会が行う。
- ③なお、電子ジャーナル掲載に必要な確認等を投稿者に求めることがある。
- ④掲載料10,000円 (税別) は、掲載誌発行後、本学会からの請求により支払う。

9) 超過頁および別刷の料金

- ①総説、原著、実践活動報告は8頁まで、研究ノートおよび資料は5頁まで、会員の声は1頁までを規定の頁とし、それを超えた場合 (超過頁) の印刷実費 (1頁当たり13,000円 (税別)) は投稿者の負担とする。
- ②図、表、写真：カラーでの掲載を希望する場合、かかる費用は投稿者の負担とする。
- ③電子付録：電子ジャーナルへの掲載を希望する場合、かかる費用は投稿者の負担とする。
- ④別刷：別刷の希望数、表紙の有無については初校返送時に申し受ける。費用は次表のとおり。

別刷料金表 (円) (税別)

本文頁数	30部	40部	60部	80部	110部	140部
		50部	70部	90部	120部	150部
1～4	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000
5～8	3,000	3,500	4,800	6,000	7,000	8,000
9～12	3,500	4,000	5,500	7,000	8,000	9,000
4頁増加ごとに	+1,000	+1,000	+1,000	+1,000	+1,000	+1,000

※表紙代は1部につき20円 (税別)。※送料・梱包料は別途実費を申し受ける。※最小注文部数は30部

※価格表にない数量については、別途問い合わせること。

9. 規定の改定

本規定の改定は、編集委員会の議を経て、理事会の議決によるものとする。

(一部改定：2023年11月1日、施行日：2024年4月1日)

栄養学雑誌編集委員会事務局

E-mail: edo@jsnd.jp (編集委員会事務局専用アドレス)

【執 筆 要 領】

1. 原稿の構成

1) 項目表

		原 稿 の 区 分		
項 目		総説・原著・研究ノート	実践活動報告	資料・会員の声
表 紙	投稿者氏名			
	所属機関名			
	連絡責任者			
	原稿等の枚数		○	
	原稿の区分			
	頁数			
	タイトル			
	ランニングタイトル	△	△	△
	和文抄録（英文投稿時は英文抄録）	○	○	△
	キーワード	○	○	△
図 表 等	図・表・写真	○	○	△
	電子付録	△	△	△
本 文	I 緒言／目的（はじめに）*	○	○	△
	II 方法（対象と方法）＊／活動内容（事業内容）*	○	○	△
	III 結果／活動成果（事業成果）*	○	○	△
	IV 考察／今後の課題	○	○	△
	V 結論	○	△	△
文	謝辞	△	△	△
	利益相反	○	○	○
	資金	△	△	△
	電子付録	△	△	△
	文献	○	○	△

○：必須，△：該当する場合または任意 *（ ）も可。／以前は総説，原著，研究ノート／以降は実践活動報告に限る。

2) 表紙及び図表等（全原稿区分共通。ただし、「資料」・「会員の声」は抄録，キーワード，図表等を省略できる）

項 目		内 容
	投稿者氏名	全員の氏名（共同筆頭著者がいる場合は † をつける）
	所属機関名	全員の所属機関名（部署名，研究室名まで）を記載する。右上付き文字（*1,*2…）等を用い，投稿者名と対応させる。
	連絡責任者	栄養学雑誌編集委員会事務局とのやり取りおよび論文上で公開するために，連絡責任者の氏名，郵便番号，住所，電話番号，Fax 番号，E-mail アドレスを記載する。
表	原稿等の枚数	本文，図，表，写真，電子付録
	頁数	本文の頁数，図表の枚数および掲載された場合の頁数（刷り上がり 1 頁は 2,200 字に相当。図，表，写真は 大 1 頁，中 1/2 頁，小 1/4 頁相当）。
紙	原稿の区分	総説・原著・研究ノート・実践活動報告・資料・会員の声のいずれか
	タイトル	短く，内容を適切に表しているもの
	ランニングタイトル	本タイトルが 25 字を超える場合は，25 字以内のランニングタイトルをつける。
	和文抄録	〔目的〕〔方法〕〔結果〕〔結論〕，実践活動報告では，〔目的〕〔活動内容〕〔活動成果〕〔今後の課題〕等に分けて，見出しを含めて 600 字以内にまとめる（構造化抄録）。
	キーワード	3～5 個。本文を適切に表しているもの。MeSH タームに準ずることが望ましい。
図 表 等	図・表・写真・ 電子付録	原稿 1 頁に 1 つを基本として作成する。1 頁におさまらない場合は，分割して 2 頁に示す。掲載するサイズ（版面約 171×244 mm 以内，見開きの場合は 342×244 mm 以内。横回転可）で，フォントサイズ 8.5 pt までを標準とする。縮小してはならない。図に限り，やむを得ない場合は 6 pt を下限とする。図は，原則としてそのまま掲載することが可能な明瞭なものとする。表題については，図と写真では下部，表では上部に掲載する。なお，表においては，縦罫線は使わない。また，図，表，写真には，登場順に〔図 1〕〔表 1〕〔写真 1〕等の通し番号をつけ，本文の欄外に，それぞれの挿入位置を指定する。補足的な説明事項を脚注におく際には，次の記号を順番に用いる。 †, ‡, §, , ¶, **, †† 電子付録は別ファイルとし，〔付図 1〕〔付表 1〕〔付写真 1〕〔付動画 1〕等の通し番号をつける。

3) 本文（総説・原著・研究ノート）

項 目	内 容
I 緒言	背景と目的。先行研究と今回の研究仮説との関連を簡潔に示す。
II 方法（対象と方法）	対象者の選定方法や特性，データ収集および解析の方法，倫理的配慮について記述する。解析方法については，本【執筆要領】「5. 統計解析」を参照すること。
III 結果	図，表を用いてわかりやすく示す。解析結果の書き方については，本【執筆要領】「5. 統計解析」を参照すること。
IV 考察	先行研究との関連，研究の制限事項（limitation）を含め，論理的に矛盾や飛躍がないようにまとめる。
V 結論	研究から導き出された重要点を簡潔にまとめる。実践上の意義（practical implication）を含む。
謝辞	著者の条件に満たないが研究の遂行や論文作成に関わった者については謝辞に記載する。
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について，具体的に記載する。企業・団体等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する（例：「利益相反に相当する事項はない」，「著者〇〇〇〇は，株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
資金	政府等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する。
電子付録	付表1 〇〇〇〇，付図1 □□□□等。印刷時に doi が記載される。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い，引用順に示す。

4) 本文（実践活動報告）

項 目	内 容
I 目的（はじめに）	事業や実践活動の目的を示す。
II 活動内容（事業内容）	事業や実践活動の説明と，対象者に対する倫理的配慮に関して記載する。
III 活動成果（事業成果）	事業や実践活動の結果，そこから得られた成果等を，図，表を用いてわかりやすく示す。
IV 今後の課題	事業や実践活動を行う際の注意点や，今後同様の事業や活動をする人たちへのアドバイス等を記述する。
謝辞	著者の条件に満たないが事業や実践活動の遂行や論文作成に関わった者については謝辞に記載する。
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について，具体的に記載する。企業・団体等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する（例：「利益相反に相当する事項はない」，「著者〇〇〇〇は，株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
資金	政府等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記述する。
電子付録	付表1 〇〇〇〇，付図1 □□□□等。印刷時に doi が記載される。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い，引用順に示す。

5) 本文（資料・会員の声）

原稿の形式は特に定めない。本【執筆要領】「1. 原稿の構成」1) 項目表，2) 表紙および図表等を参考に作成する。ただし，利益相反（必須項目）と文献（該当する場合は，下記を参考に記載する）。

項 目	内 容
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について，具体的に記載する。企業・団体等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する（例：「利益相反に相当する事項はない」，「著者〇〇〇〇は，株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い，引用順に示す。

6) 英文タイトルおよび抄録

投稿規定 8. 7)「和文の場合の抄録の英訳」に記載されているように、編集委員会の求めに応じて、最終稿を登録する際に、下記の原稿を提出する。

英文 タ イ ト ル お よ び 抄 録	Title	和文タイトルの内容と一致したもの
	Authors	著者全員の氏名
	Affiliation	全員の所属機関名。左上付き文字 (*1.*2…) を用い、著者名と対応させる。
	Abstract	〔Objective〕〔Methods〕〔Results〕〔Conclusions〕に、実践活動報告では、〔Objective〕〔Practice〕〔Results〕〔Future practice directions〕等に分けて、250words 以内にまとめる (Structured Abstract)。和文抄録の内容と一致していること。
	Key words	3～5 個。日本語キーワードと一致したもの

2. 原稿の作成フォーマット【様式 4】(学会ホームページから最新版をダウンロードして用いること)

- ① パーソナルコンピュータを用い、原稿(表紙、本文、図・表・写真等。電子付録の動画等を除く)は A4判用紙を縦置きとして、横書きで作成する。ただし、図表等は A4判用紙を横置きとしてもよい。なお、提出ファイルは、Windows の汎用ソフトウェアで扱うことができるものとし、本文は MS-Word、表は MS-Excel、図は MS-PowerPoint の使用を推奨する。
- ② 1 頁あたり 40 字×25 行とし、余白を上下各 30 mm、左 20 mm、右 25 mm に設定する。
- ③ フォントは、和文原稿では明朝体 10.5 pt、英文原稿および英文抄録は Times New Roman 12 pt とする。なお、図表のフォントサイズは 8.5 pt までを標準とする (8.5 pt ~10.5 pt の範囲内を許容) が、図に限り、やむを得ない場合は 6 pt を下限とする。
- ④ 表紙から文献までには、通し頁(原稿下部の中央)および行番号(全頁での通し番号)をすべての行につける。
- ⑤ 数字には算用数字を用い、数字や英字は半角とする。
- ⑥ 図、表、写真には、〔図 1〕〔表 1〕〔写真 1〕等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。英文で表記をする場合は〔Figure 1〕〔Table 1〕とし、〔Fig.1〕などと省略はしない。
- ⑦ 初回投稿時および査読経過中の提出ファイルは、オンライン投稿システム(Editorial Manager)へアクセスし、システムの入力項目に従って入力すること。
- ⑧ 編集委員会の求めにより、組版用の最終原稿を提出する際は、書き換え可能なファイル形式とし、本文は MS-Word、表は MS-Excel、図は MS-PowerPoint の使用を推奨する。電子付録は提出された形式のまま掲載するため、付図、付表等は PDF 形式を、動画は mp4 形式を標準とする。ただし、読者の利用に配慮し、付図、付表等は MS-Excel 形式、画像は JPEG 形式または PNG 形式としても良い。

3. 原稿作成上の注意

- ① 和文の文章はひらがな、新かなづかいとし、漢字は原則として常用漢字とする。
- ② 栄養学用語は、日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典 第 2 版」、医学用語は日本医学会用語管理委員会編「日本医学会 医学用語辞典 改訂第 3 版」等に準ずる。
- ③ 実験に用いる物質については、商品名を用いず、必ず化学物質名を用いる。
- ④ 数量は算用数字を用い、桁数の多い数は 3 桁ごとにカンマで区切る。ただし、ページ数、通算番号(文献、特許等)の数字にはカンマを入れない。主な単位は次のように示す。km, m, cm, μm , nm, kg, g, mg, μg , kl, l, ml, μl , kcal とする。
- ⑤ 論文中、繰り返し使われる語句については、一般的な略語がある場合は略語を用いてかまわないが、抄録、本文、各図表等、それぞれの初出の時には省略しない。表題には略語は用いない。
- ⑥ 図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の承諾を得て、引用文献番号に加えて、図や表の下に出典を明示する。
- ⑦ 外国語名称はカタカナを用いることを原則とするが、固有名詞や原語の表記が広く使われ、理解しやすい場合には、原語を使用する。
- ⑧ 本文中の年は西暦で記載する。文献に関しては、本【執筆要領】「4. 文献のリスト」の項を参照のこと。
- ⑨ 本文中に、章・節・項等を設ける場合は、以下の符号を使用する。
 - I. II. III.
 1. 2. 3.
 - 1) 2) 3)
 - (1) (2) (3)
- ⑩ 文献は論文に直接関係のあるものにとどめ、引用順とし本文の最後一括して記載する。本文中の引用文献番号は上付とする。2 つの文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る(例, ^{1,2)})。連続しない 3 つ

以上の文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る（例、^{1,3,5,7,9}）。連続する3つ以上の文献を引用する場合、最初の文献番号と最後の文献番号を「～」でつなぐ（例、²⁻⁵）。また本文中に著者名で引用する場合、著者が2名以下の場合には姓を記し（例：木戸・恩田¹⁾）、3名以上の場合には最初の著者の姓を記し「ら」をつける（例：Prochaska ら¹⁾）。文献は一般に検索可能な公刊文献に限り、入手困難、検索不可能な文献は避ける（文献として引用できないものの例：社内資料、未発表論文、公刊されない学位論文、カタログ等）。

①統計解析に関する表記方法等については、本【執筆要領】「5. 統計解析」の項を参照すること。

4. 文献のリスト

引用文献の記載は、下記のように Index Medicus に従い、欧文雑誌名は略記し（略記した場合はピリオドを入れる）、イタリック表記とする。和文雑誌名は略記しない。

ただし、法規を引用する場合は、本文中に明記する。

①【雑誌】著者名（和文はフルネームで、欧文は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで、筆頭著者から3名まで記し、4名以上の場合、「, 他」「, et al.」を用いて略記する）：論文タイトル、雑誌名、巻数、初頁-終頁（発行年）
なお、ページ付けがない電子ジャーナルの場合は、初頁-終頁に替えて論文番号を記し、DOI (Digital Object Identifier) を続けて記す。

(和) 黒谷佳代, 中出麻紀子, 瀧本秀美: 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事と健康・栄養状態ならびに食物・栄養素摂取状況との関連—国内文献データベースに基づくシステマティックレビュー—, 栄養学雑誌, **76**, 77-88 (2018)

(洋) Tanaka, H., Imai, S., Nakade, M., et al.: The physical examination content of the Japanese National Health and Nutrition Survey: temporal changes, *Asia Pac. J. Clin. Nutr.*, **25**, 898-910 (2016)

※ Asia は、略していないので「.」は不要だが、Pac. J. Clin. Nutr. は略しているため「.」が必要

(電子ジャーナル・ページ付けがない) Anders, S., Schroeter, C.: The impact of nutritional supplement intake on diet behavior and obesity outcomes, *PLoS One*, **12**, e0185258, doi: 10.1371/journal.pone.0185258 (2017)

②【図書】著者 [編者] 名: 章などのタイトル、書名, [編者], pp. 初頁-終頁 (発行年) 出版社, 所在地

※ pp. と p. の使い分け: 単頁の場合は p., 複数頁の場合は pp. を用いる。

(和・著者) 坪野吉孝, 久道茂: 食物摂取の変動要因, 栄養疫学, pp. 47-56 (2001) 南江堂, 東京

(和・編者) 伊達ちぐさ, 徳留裕子, 吉池信男編: 栄養素等摂取量算出のためのデータベース, 食事調査マニュアル (第3版), pp. 23-24 (2016) 南山堂, 東京

(和・著者および編者) 高田和子: 引用文献の書き方, 初めての栄養学研究論文 人には聞けない要点とコツ, 栄養学雑誌編集委員会編, pp. 64-66 (2012) 第一出版, 東京

(洋・著者) Pereira-Maxwell, F.: Geometric mean, A-Z of medical statistics: A companion for critical appraisal, p. 27 (1998) Oxford University Press, New York

③【翻訳本】著者 [編者] 名: 原著名/訳者名, 章などのタイトル, 書名, pp. 初頁-終頁 (発行年) 出版社, 所在地

(著者) Willet, W.: Nutritional epidemiology. 2nd ed. / 田中平三監訳, 1 回当たり摂取される食品の大きさ (Portion Size), 食事調査のすべて—栄養疫学— (第2版), pp. 94-99 (2003) 第一出版, 東京

(編者) Erdman Jr, J.W., Macdonald, I.A., Zeisel, S.H. eds.: Present knowledge in Nutrition. 10th ed. / 木村修一, 古野純典監訳, ビタミン C, 最新栄養学 (第10版), pp. 220-231 (2014) 建帛社, 東京

④【インターネット上の文献】著者名※: タイトル※, URL (アクセス日) 注※: 明らかでない場合に限り省略可。

文部科学省, 厚生労働省, 経済産業省: 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針, <https://www.mhlw.go.jp/content/001077424.pdf> (2023年10月27日)

⑤【通知】発行者: タイトル, 項目名, 通知日, 文書番号 (通知年)

厚生労働省健康局健康課長: 「第4次食育推進基本計画」に基づく健康づくりのための食育の推進について, 令和3年4月1日, 健健発0401第3号 (2021)

⑥【報告書】(冊子体の報告書) 報告者名: 報告書タイトル, pp. 初頁-終頁 (発行年)

日本高血圧学会: 日本高血圧学会減塩委員会報告2012, pp. 27-37 (2012)

(インターネット上の報告書) 報告者名: 報告書タイトル, URL (アクセス日)

日本栄養改善学会: 令和2年度厚生労働省委託事業 令和2年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告, <http://jsnd.jp/r02kourou.html> (2023年10月27日)

⑦【公表されている学位論文】著者名: 論文タイトル, 大学名, 学位授与年, 論文の種類, 入手先※

注※: インターネットで入手可能な場合は, URL (アクセス日) を記載する。

小山達也: 日本の中高年及び自立高齢者における「日本人の食事摂取基準」を用いた食事の質の栄養疫学的検討, 大阪市立大学, 2018年, 博士論文, https://dlistv03.media.osaka-cu.ac.jp/il/meta_pub/G0000438repository_111TDB2886 (2023年10月27日)

5. 統計解析

1) 統計解析に関する留意点

確認事項 (主に必要な事項)

- ① データは、名義尺度、順序尺度、数量尺度等のいずれか。
- ② 標本サイズおよびデータの分布。
- ③ 比較する群がある場合、2群か、3群以上か。
- ④ 「対応のある」データであるか。
- ⑤ 欠損値がある場合、どのように扱うか。
- ⑥ ①～⑤を考慮して、適切な要約統計量を記載し、必要に応じて推定・検定を行う。解析にはパラメトリックな手法(数量尺度)と、ノンパラメトリックな手法(名義尺度、順序尺度)がある。数量尺度であっても、正規分布しない場合には、対数変換等を行って正規分布に近づけてパラメトリックな手法を用いたり、ノンパラメトリックな手法を用いたりする。分布は、原則として①ヒストグラム、②正規確率プロットにより視覚的に正規性を判断し、③歪度、尖度、④正規性の検定は参考とする。詳細は、当学会監修：初めての栄養学研究論文一人には聞けない要点とコツー(2012)第一出版、東京および保健統計学等に関する成書を参照すること。

2) 論文における記載方法

- ① 解析方法はすべて方法に記載するとともに、図表の脚注にも検定法を簡潔に記載する。
- ② 割合(%)を示す時は、分母となる総人数がわかるように記載する。
- ③ 検定の有意水準を示し、両側検定か、片側検定かを明記する。
注) ほとんどの場合は、両側検定である。
- ④ p 値は原則としてそのままの値を示す。0.01以上の場合には有効数字を2桁(例:0.21, 0.054)、0.01未満の場合には有効数字を1桁(例:0.009)、0.001未満の場合は <0.001 と記載する。
注) 相関表等において、図表の簡略化のために記号等で有意性を表すこともある。
- ⑤ 分析結果の数値は、必要十分な桁数で示す。
注) 目安として、平均値・標準偏差・標準誤差の小数部は、元のデータより1桁多く、割合(%)では整数または小数第1位まで、オッズ比・相対危険は小数第2位まで。
- ⑥ 回帰係数、オッズ比等は、点推定値だけでなく、標準誤差や95%信頼区間または p 値も示す。
- ⑦ 市販のコンピューターソフトを用いて処理した場合は、使用したソフトウェア名(バージョン、開発元)を本文中に記載する。

6. 原稿以外に必要な書類：全ての書式(最新のものを)、学会ホームページからダウンロードすること。

- ① 投稿手続き票【様式1】
- ② 著作権委譲承諾書【様式2】
- ③ 利益相反開示書【様式3】

7. その他留意事項

1) 食事調査

食事調査では、栄養計算に使用した日本食品標準成分表等の名称(版)や栄養計算ソフト名(バージョン)を示すこと。食物摂取頻度調査法等、調査票を用いる場合には、その妥当性を示した論文を引用すること。また、新たに開発した調査票の場合、その妥当性を本文中に示すこと。

2) 食事摂取基準

最新の「日本人の食事摂取基準」を参照することを原則とし、正しく摂取量のアセスメント等を行うこと。

3) 介入研究・疫学研究のデザインと報告

無作為化比較試験については CONSORT 声明 (<http://www.consort-statement.org>) を、非無作為化比較試験については TREND 声明 (*Am. J. Public Health*, **94**, 361-366 (2004)) を、観察研究については STROBE 声明 (<http://www.strobe-statement.org>) を参考とすることを強く推奨する。

なお、これらの日本語訳及び解説は、中山健夫、津谷喜一郎編著：臨床研究と疫学研究のための国際ルール集(2008)ライフサイエンス出版、東京に記載されている。

(一部改定：2024年4月1日)

注記：この投稿規定・執筆要領は2024年4月1日導入の電子投稿審査システムで投稿する論文に適用します。2024年3月22日までにメール投稿される論文は2021年11月1日施行の投稿規定・執筆要領(2021年11月1日施行・学会ホームページ掲載)を適用します。